

ひまわりからの メッセージ

81号

2018.2.19.

NPO ひまわりの花内
西濃園域
発達障がい支援センター
発行人: 中野にみ子

楚々と咲く一輪の

すみれに心を寄せて



二月十七日は、特別な日でした。

冬季オリンピックフィギュアスケートで、羽生結弦選手と宇野昌磨選手が表彰台の一位二位を独占し、将棋の世界では、藤井聡太さんが朝日杯で優勝し、最年少で六段に昇段したことで、日本中が沸いた日でした。

年若い人たちの受賞後のことには、それぞれの人となりを感じられ、特に羽生選手のことには、数々の苦難を乗り越えてきたからこぞ言えることほどの重みが心にひびきました。

その日、私は……と言うと、今年度最後のセンター主催の講演会を開催しましたが、不手際ばかりの日でした。この日が土曜日課の日であることを考えずに計画し、多くの方々に参加していただくことができなかったこと、レジュメの講師のお名前を変換ミスのまま印刷してしまったこと、研修報告会では、CD資料がパソコンで開けな

いというミスまであって、テレビの中で喜びに沸く人々とは全く無縁の世界に沈んでいました。

一夜明けて、今朝は庭に雪がうっすらと積もっていました。先日の大雪のあと、融け始めた雪の下に咲くすみれを一輪見つけ、その楚々とした姿に心を奪われたのですが、今朝も少し気持ち切り換えようと庭先を巡ってみました。

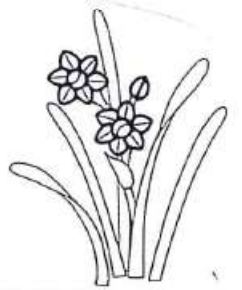
わが庭は、今年は梅も咲かず、木蓮の花芽も見られません。植垣の下で、すみれは新たにもう一輪、小さな花を咲かせていました。そして庭の北隅では、白の佗助が咲き終わった後、いつのまにか淡いピンクの佗助が咲きはじめました。

自然は、こうして季節ごとに芽吹き、花を咲かせ、やがて散って土に還っていくのだなあと、思い、私も自然の中の一かけらにすぎないと気づかされたのでした。そして、挑戦しつづける羽生選手のようにはいかないけれども、植物のように、ありのままに生きていけばいいのだとも思ったのでした。私は私らしく……。

こんな私に、日々相談して下さる方々は、子どもたちの困り感にどの様に向き合えばいいのか……と悩んでいらつしやることが多いようです。でも肩の力を抜いてみませんか？ 雪の下に咲く小さなすみれの花のように、どんな子どもたちの中にも隠れた美しさや輝くものが必ず在るのだと私は思っています。できないこと、駄目なことに隠れた良さを見い出して、みることが、解決の第一歩かもしれません。子どもたちの表われ方はそれぞれですけれど……。

この一年間で

どんなことを学べたのか？



平成二十九年度も残り一ヶ月余りとなって、さて、今年度はどのような活動をしてきたのか、センターの事業報告も県に提出する時期になって振り返ってみました。

① ケース検討会

西濃圏域の発達障害専門外来のいかワクリニック院長・井川典克先生を助言者として年六回開催しているもので、今年度は大垣で二回、養老、安八、海津、池田で行いました。

② 保育者、保健師研修会（年三回）

③ 療育スタッフ研修会（年十二回）

④ センター親の会（年十二回）

⑤ 各市町での発達相談・教育相談は、依頼を受けず出席

⑥ 児童発達支援事業所の療育指導方法研修会

⑦ 保育園等への巡回訪問（安八、関ヶ原、大野など）

⑧ 園↓小学校、小学校↓中学校への引き継ぎ会と、その後の

継続訪問

⑨ 学校からの依頼で授業参観と保護者相談

⑩ 依頼による会議、委員会、講演会への出席

この様なことの他に、外部の先生にお願いして、子どもたちに関わる保育者や療育者、学校の先生方を対象に、研修会を多く開いてきました。

個別の教育支援計画作成について

今尾小学校校長の堀内教子先生を講師としてお招きしました。そこでは、保護者との合意形成の大切さを学ばせていただきました。そして、在籍校と通級指導教室の関係についても、まず、その児童の在籍学級において、通級で何を学ばせたいのか、明確な指導目標をもった上で通級に通わせるべきだということばに共感しました。

同様のことは、支援学級の交流でも言えることではないでしょうか。その児童に、どのような力をつけさせたいのか、決まった教科だから交流に出しているというのでは、親学級の対応もちがうのではないだろうか……？

感覚統合について

希望が丘 こども医療福祉センターのりハビリテーション科課長で作業療法士の相羽秀子先生にお話を伺いました。感覚の問題や子どもたちの支援について、とても分かりやすく話していただいたので、具体的にどのように実践していくと良いのか、分かったと、とても好評でした。私達は、子どもの味方です！！

応用行動分析について

岐阜県発達障害支援センターの加藤永歳先生に、二回シリーズで研修を受けました。子どもたちが示す行動を、個人と環境（周りの人や物）との相互作用として捉え、関わり方の工夫で解決をはかることを教えていただきました。そして、罰的な対応は決して効果が持続せず、かえって副作用が出てしまうことも学びました。

TASP（タスポ）研修

一年前に出されたツールで、園の年少、年中、年長児を対象に保育士が評価し、発達障害の特性に早く気づいて、保育に役立つためのものです。将来の自傷や引きこもり、暴言や反社会的行動などを予測し、早めの支援をしていこうとするものです。

子どもの眠りと環境について

大垣女子短期大学松村齋教授の講演では、眠りによって脳が育つということを学びました。しかし、現代人は昔に比べて睡眠時間が減って夜遅くまで起きていることが増えました。しかも、子どもでもスマートフォンなど小さな画面に集中することが増え、大型テレビからは、常に電磁波の影響も受けてつづけています。つまり脳の発達も最優先しなければいけない時期の子どもが、大人の利便性に巻き込まれて、眠れない環境に置かれているのだという

ことです。子どもの成長発達に必要なホルモンの分泌も、上手くいかなくなるために、ストレスをかかえ、炭水化物や脂っこい物が食べなくなり、肥満に結びつくというお話でした。

「子どもが安心して眠ることができる環境を作るのは、大人の役目であり責任である」と、先生は話されました。大人でも、睡眠不足が進むと、気分や感情、認知能力などすべて低下し、抑うつになるのは、つまり脳の働きが悪くなるということだと警鐘をならされました。皆さんは大丈夫ですか。

誰のために、何を目指して、我々は関わるのか

井川典克先生は、この講演は保護者向けではなく、療育や教育関係者向けの話をされました。テンフル・グランディンとジョン・バロンから、人間関係の暗黙のルール十ヶ条を、まず話されました。自閉症の人にとって知っておくべき暗黙のルールです。

1. ルールは絶対でない。状況と人によりけりである。
2. 大きな目で見れば全てのことが等しく重要なわけではない。
3. 人は誰でも間違いを犯す。一度の失敗ですべてが台無しになるわけではない。

4. 正直と社交辞令を使い分ける。
5. 礼儀正しさは、どんな場面にも通用する。
6. やさしくしてくれる人がみな友人とはかぎらない。
7. 人は公の場と私的な場とは違う行動をする。

8. 何が人の気分を害するかをわきまえる。
9. 「とけ込む」とは、おおよそとけ込んでいるように見えること。
10. 自分の行動には責任をとらなければならぬ。

これらは、どれも難しいことですが……。

大人からの支援についても、補助の先生がつくことで最初は助かるでしょうが、いつまでも手取り足取りでは、本人の抵抗が出てきます。本人は信頼されていない印象を受けるからで、大人の支援の手を受動し提案へと次第に抜いていく必要があります。しかし、自由になると、本人は極端になって何でも自分の思い通りにやっていいのだと考えてしまいます。ですから、そこに、大人の承認が必要であること、報告の義務を教えていくべきだと先生はおっしゃっていました。確かに報告の義務を教わらなかった子は、自立は難しいと思いました。又、子どもの行動について、特性なのか、反応なのか、症状なのかを見極めることが大切で、それによって対応が異なってくることを知っておくべきだということも、再確認したことでした。

先日、一人の青年の相談にのりました。友だちもできず、自分は駄目な人間だと言う彼に、色々な話をしました。でも、おそらく彼は自分の特性を受け入れることは難しいのだろうと思います。私に、不特定してもらいたかったのだろうと思います。

子どもたちの年令が高くなればなる程、かかえている困難さ

が大きくなっていくように思います。幼児期からの積み上げを学習面だけに目を向けていると、将来一人で生きていく力が抜けていきます。そこで……

お知らせです!!

西濃圏域発達支援センターは、この十年間、主に児童生徒を対象に相談業務を行ってきましたが、平成三十年度からは、職員を増員して大人の方の相談にもものづくことになりました。

成人の方の就労に関しては、現在あゆみの家の就労支援センターに発達障害コンシェルジュが配置されていますが、当支援センターでは、引きこもりの方や強度行動障害などの方々の相談にも応じていくことになるだろうと考えられています。乳幼児期からの途切れない支援をというのは、とても大切なことですが、果たしてどこまで出来るのか……未知数です。とりあえずは、中学卒業後の年令から広げていければと思います。又、お力をお借りしたいと思えます。よろしく願っています。

・三月のセンター親の会は三月十二日です。

